



一中だより

1月号
平成31年 1月 9日
小平市立小平第一中学校

■新たな年を迎えて

校長 栗林 昭彦

何かにつけて「平成最後」がつく年末だったせいか、何年か後までを見据えた学校の在り方に向け、いろいろ考えを巡らせた冬休みでした。学校全体も、すでに来年度に向けた準備に入っています。そんな中で避けられない重要事に新一年生の人数問題があります。小平市全体では中学生数に大きな変化はなく、地域によっては増加傾向です。しかし本校の立地する仲町、学園東町周辺では微減の状況で、ここ数年私立中に進む児童の数によっては学級数にも影響が出かねない状態が続いています。小平市では小学生の進学先は住所によって明確に決められていますので、中学校としてはただ祈るばかりです。

しかし手をこまねいてばかりではいけないと思っています。住所で入学者は決まるものの、私立に進学する児童もいれば、子供の中学校入学を機に住宅の購入を検討している家族もあるかもしれません。そういった人たちにも選んでもらえる、魅力のある学校を作っていくことが必要だと思っています。

先月東京都の「地域学校協働活動推進フォーラム2018」に、学校支援コーディネーターの布さんと共に参加し、この学校だよりでもお知らせした「なかまちテラスティーンズ委員会」の活動について発表しました。地域の図書館や小学校、高校との協働で行う読書活動推進の取組は、多くの方に興味をもって聞いていただけたようでした。

昨年度来、「読書」を核にしたよりよい学校づくりに取り組んでいます。おかげさまで図書室の貸出冊数も順調に増加していますし、朝読書にしっかり取り組んでいる生徒の姿を見ると、全体的な方向性は間違っていないと感じています。これらをさらに発展させて、多くの人に選んでもらえる小平一中にすること、そんなことを考えた冬休みでした。今年も、本校に連なる皆様のお知恵、お力を借りながら、取り組んでまいりたいと思います。

